第１回熊本市小中学校キャリア教育懇談会

熊本市総合ビジネス専門学校

１　開会	13:30
２　教育長挨拶	13:35
３　参加者自己紹介	13:40
４　事務局説明	13:50
（１）キャリア教育をめぐる国の動向	
（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状	
（３）関係各課の取組	
（４）企業の取組	
（５）公益社団法人の取組	
５　懇談	14:15
６　閉会、諸連絡	15:25



（１）キャリア教育をめぐる国の動向

キャリアとは、特定の職業に就くことだけを意味するのではありません。

キャリア＝人生の様々な場面での経験の積み重ね

学ぶこと
（学校・家庭・地域での学び）

働くこと
（将来の仕事・今の学びがつながる）

自分らしい生き方を実現していくこと



家庭や地域で役割を果たすこと
（人との関わり・社会への参画）

自分の夢や目標に向かって取り組むこと
（挑戦・成長）

これらの積み重ねが、子どもたちの「キャリア」になります。

キャリア教育とは、

一人一人の社会的・職業的自立に向け、

必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、

キャリア発達を促す教育です。



子どもたちが、自分らしく社会の中で生きていくために、

「生きる力」を育む教育

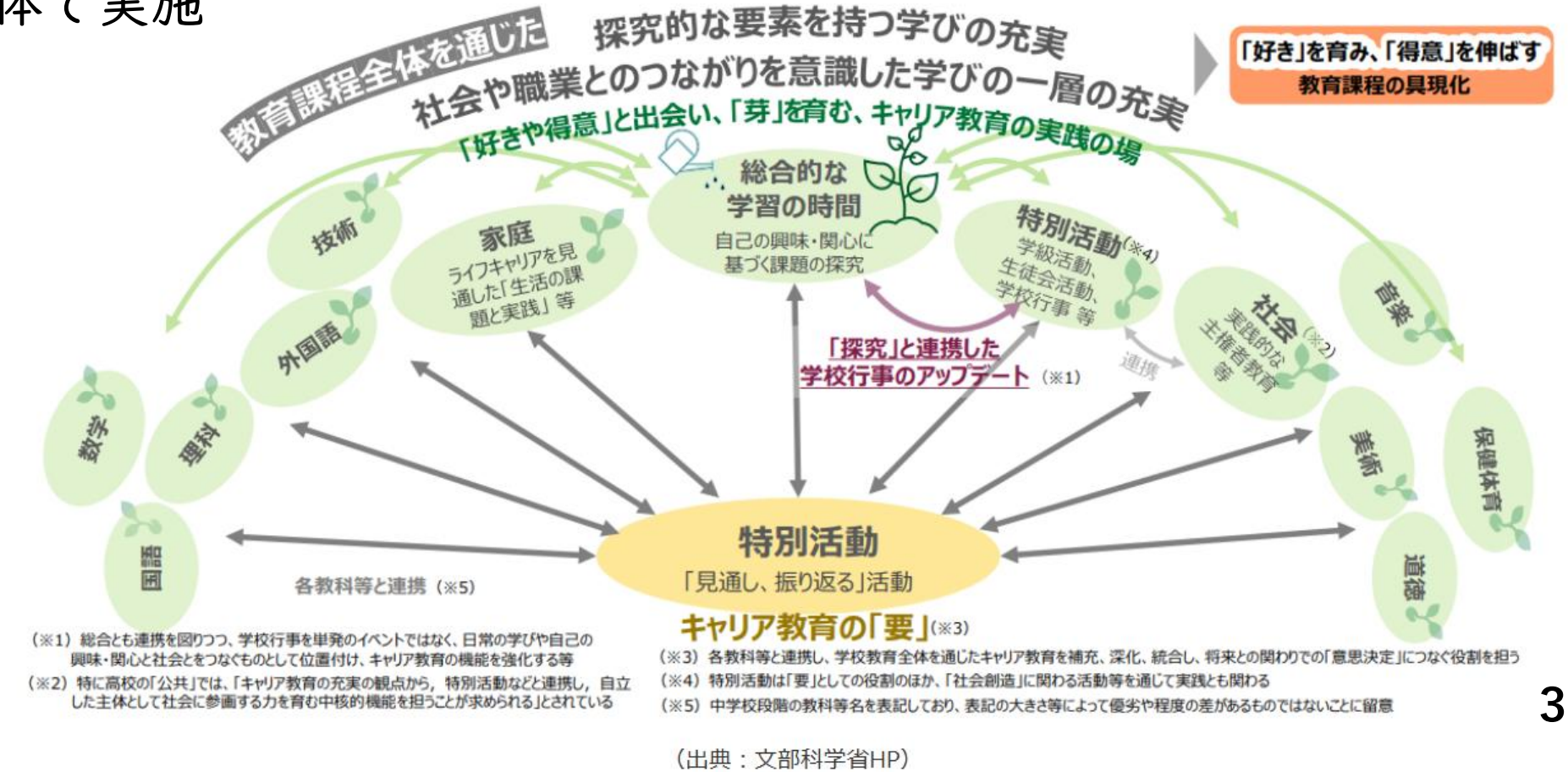
それがキャリア教育です。

文部科学省「小学校・中学校キャリア教育の手引き」参照

（１）キャリア教育をめぐる国の動向

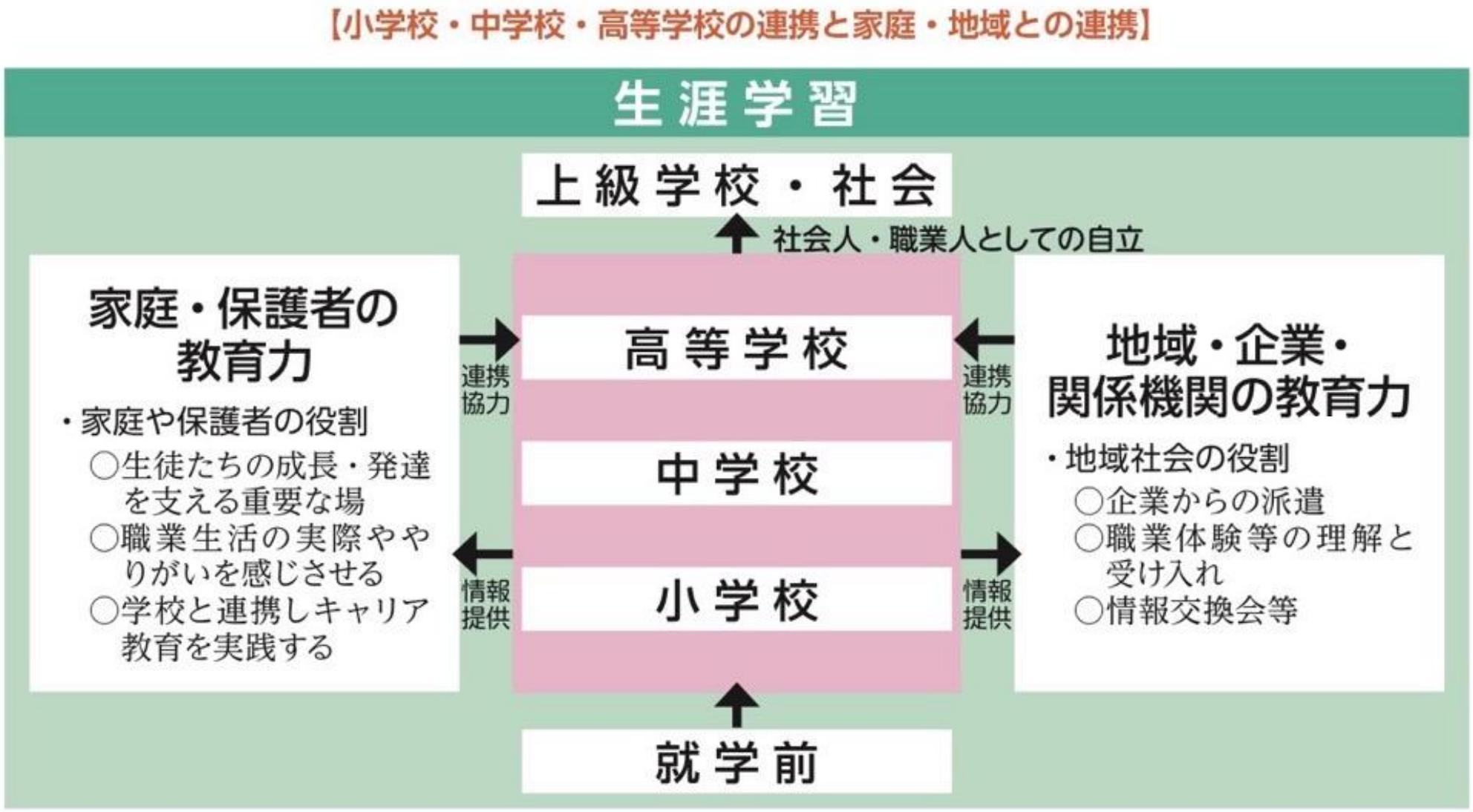
平成29･30年告示学習指導要領 総則において

- 「学ぶこと」と「将来」とのつながりを重視
- 社会的･職業的自立に必要な資質･能力の育成
- 学校の教育活動全体で実施



（出典：文部科学省HP）

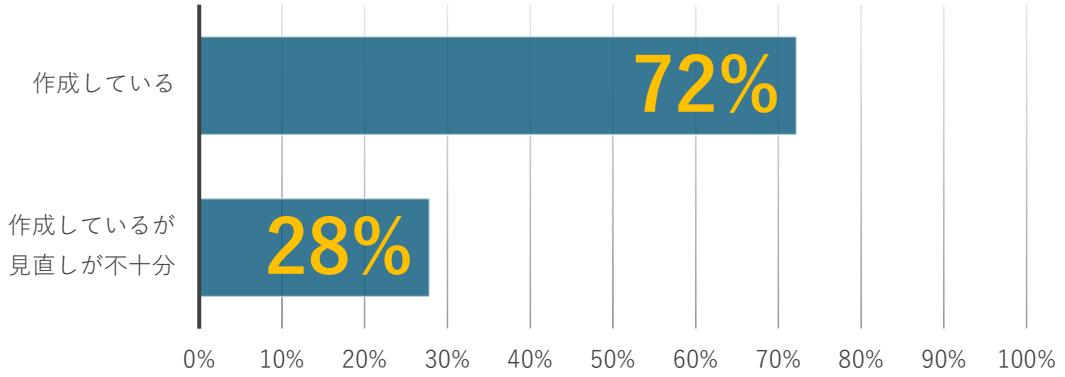
（１）キャリア教育をめぐる国の動向



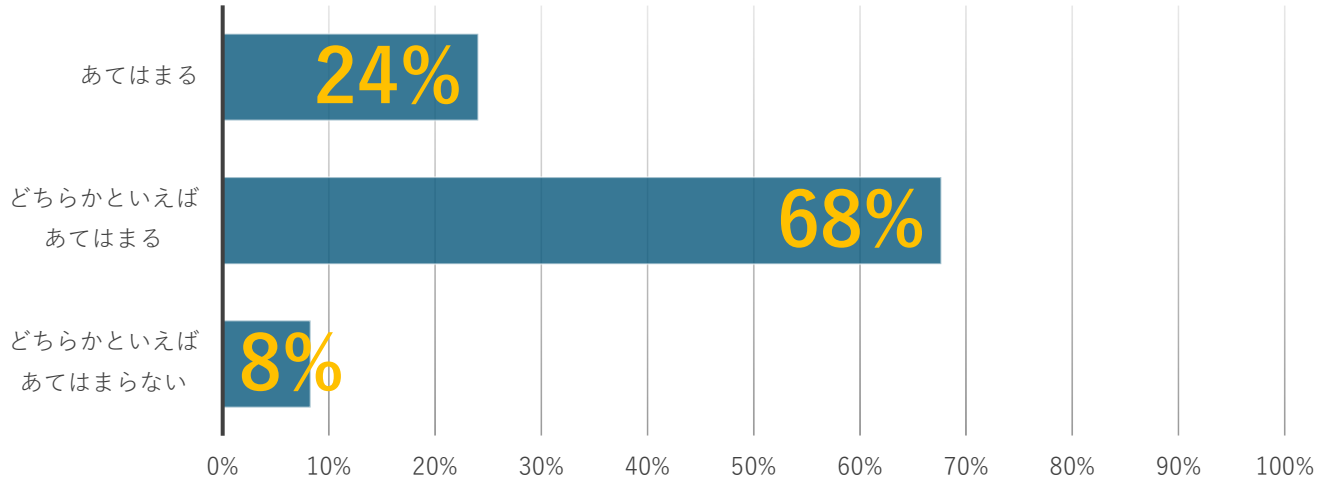
文科省「キャリア教育ガイドブック」

（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

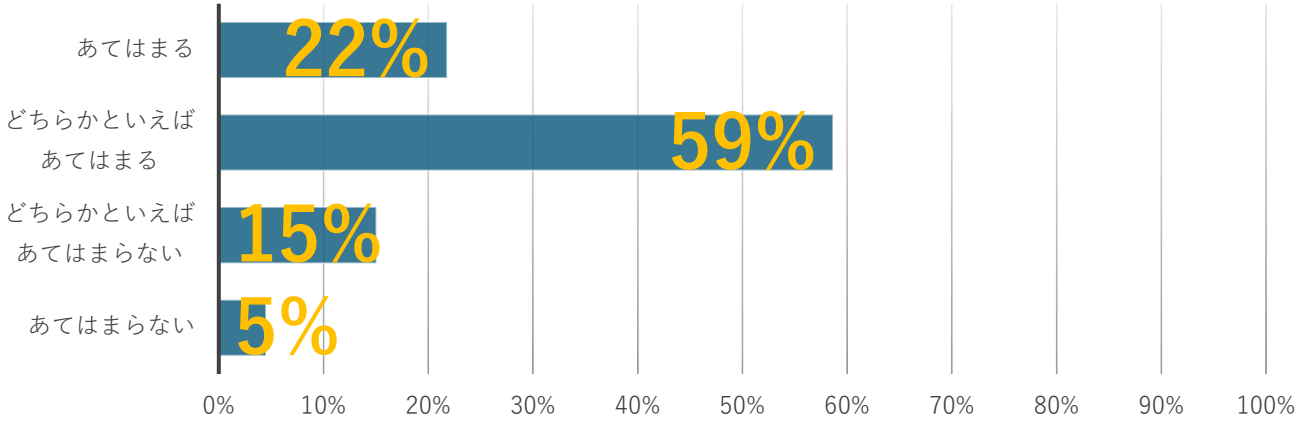
①自校のキャリア教育の目標の具現化を図る全体計画を作成していますか。



②キャリア教育を教育活動全体で行っている。



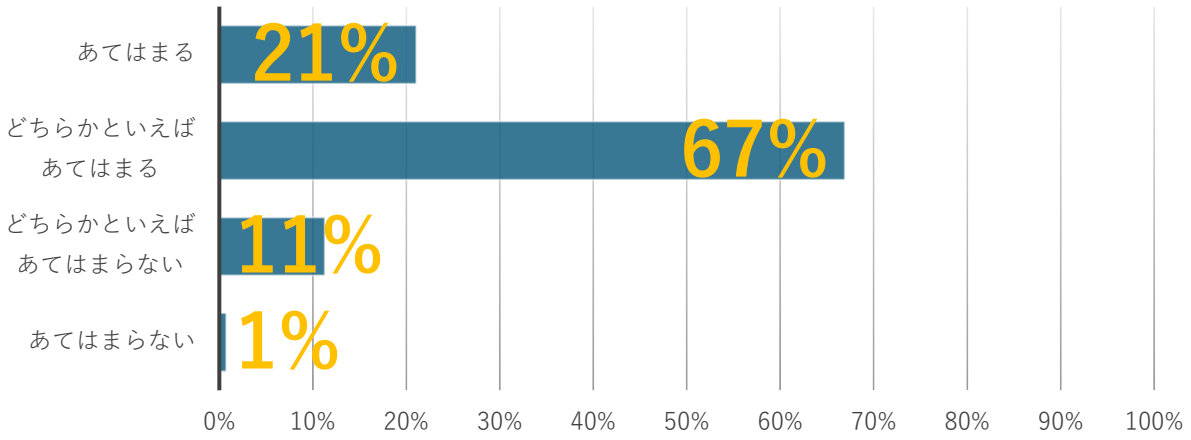
③学年ごとに育成する資質・能力が明確化された年間指導計画が作成されている。



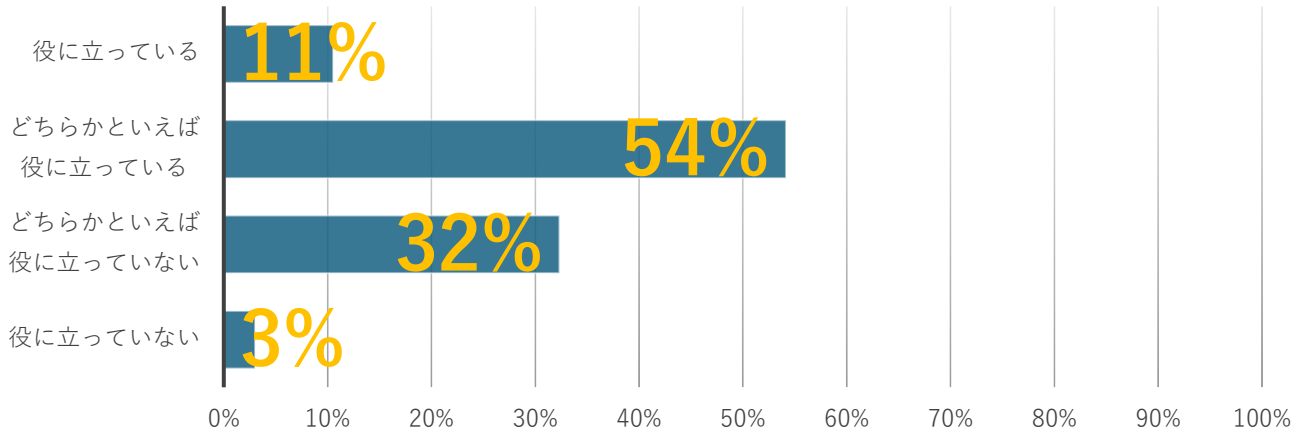
各校のキャリア教育担当者へのアンケート
133校/135校　回答

（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

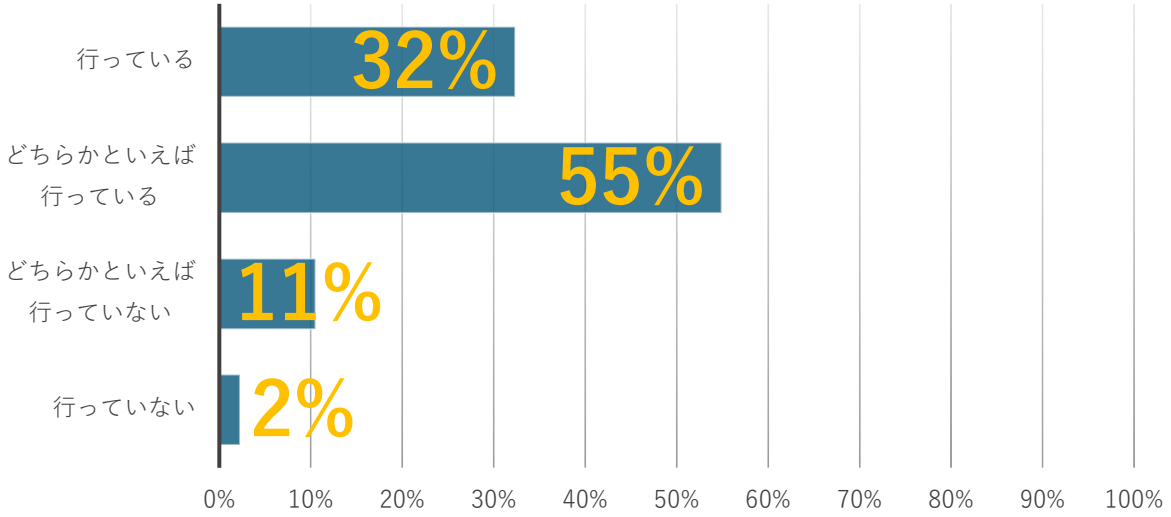
④児童生徒の問題解決的な活動や体験的な学習の時間が十分に確保されている。



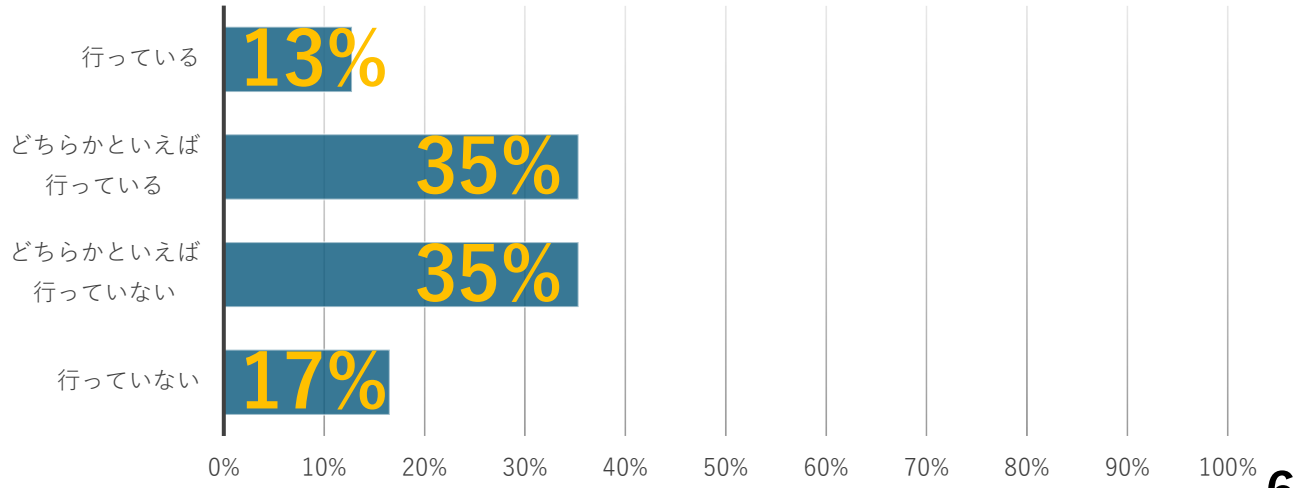
⑤キャリア・パスポートは役に立っていると思いますか。



⑥地域と連携は行っていますか

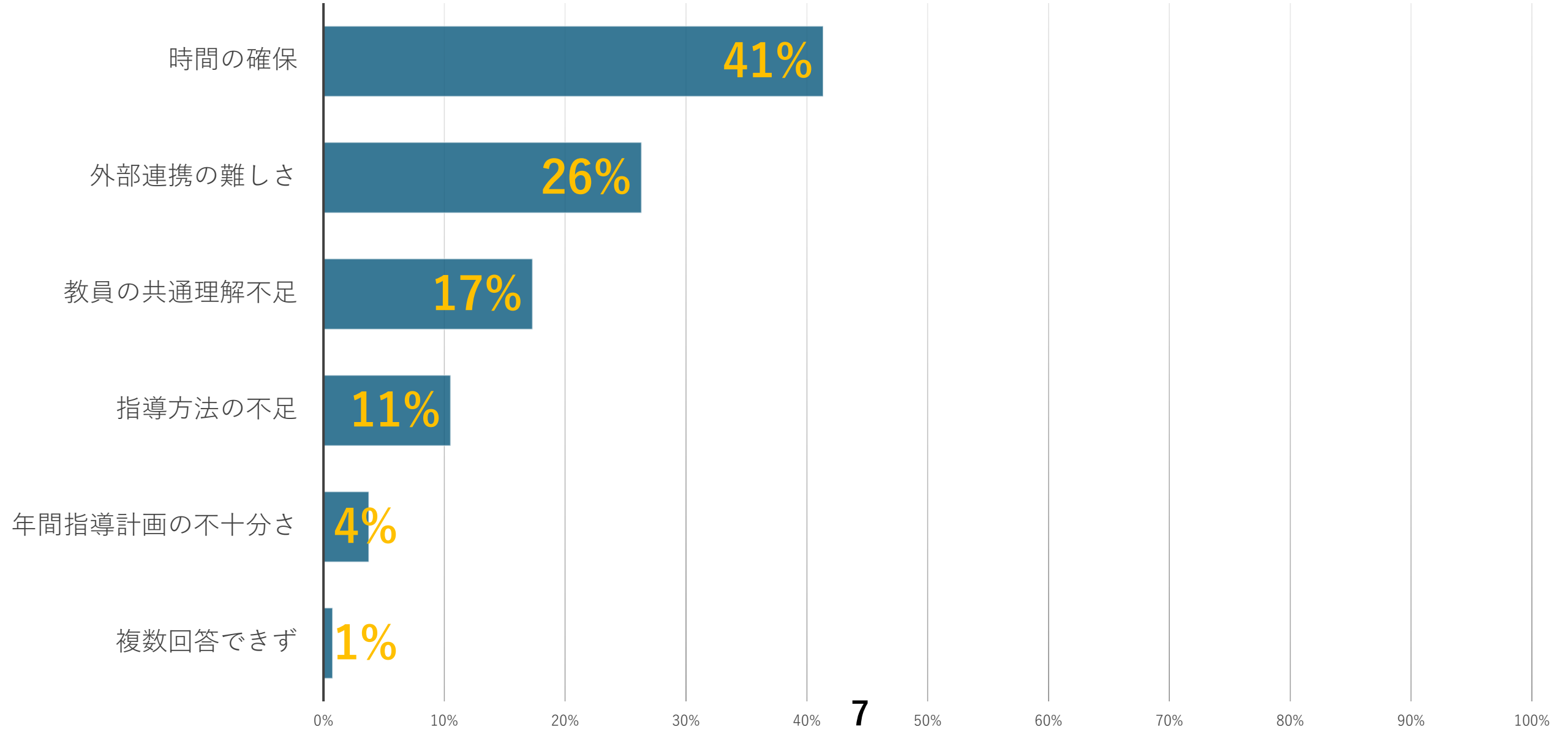


⑦企業や行政機関等と連携は行っていますか



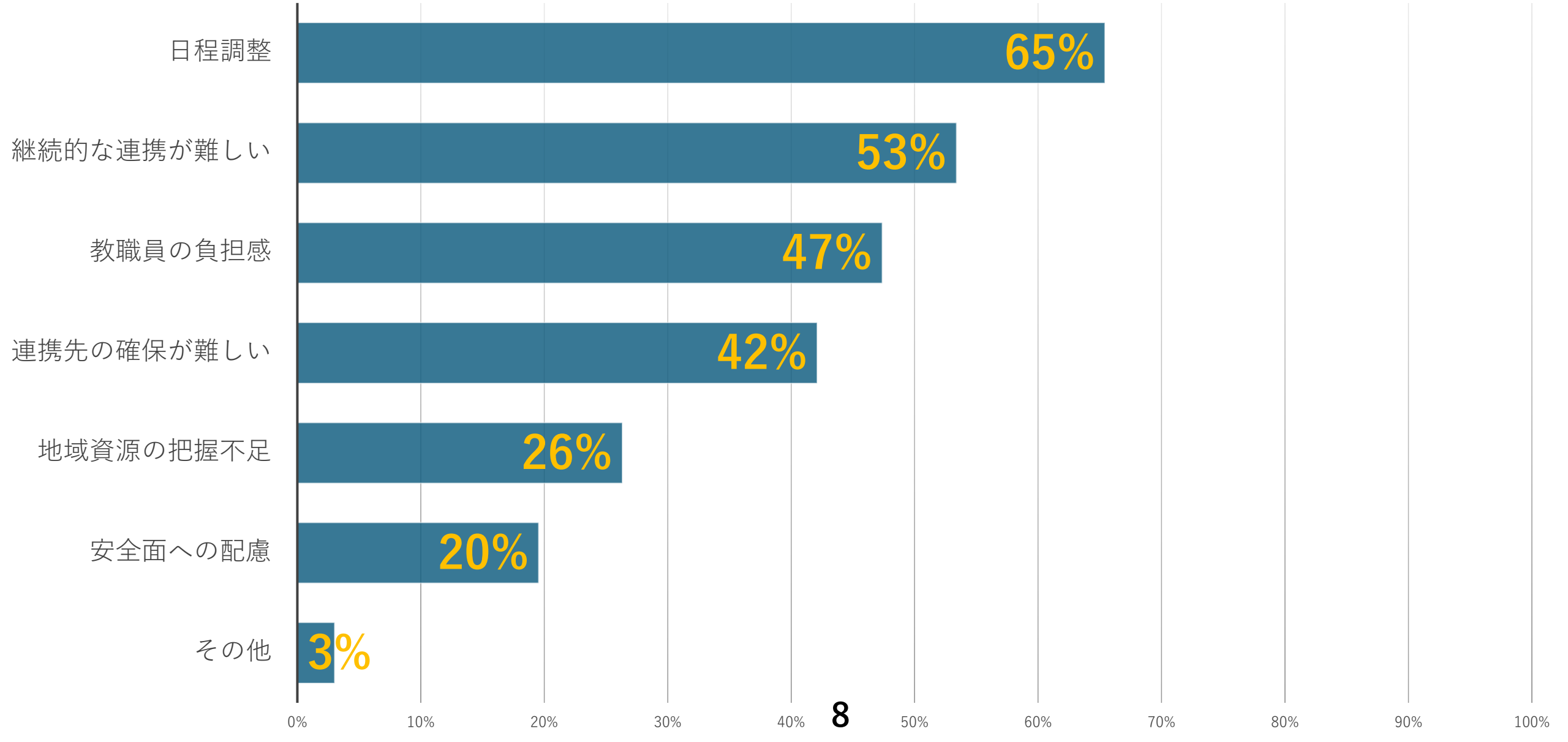
（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

⑧キャリア教育を行う上での課題（複数回答可）



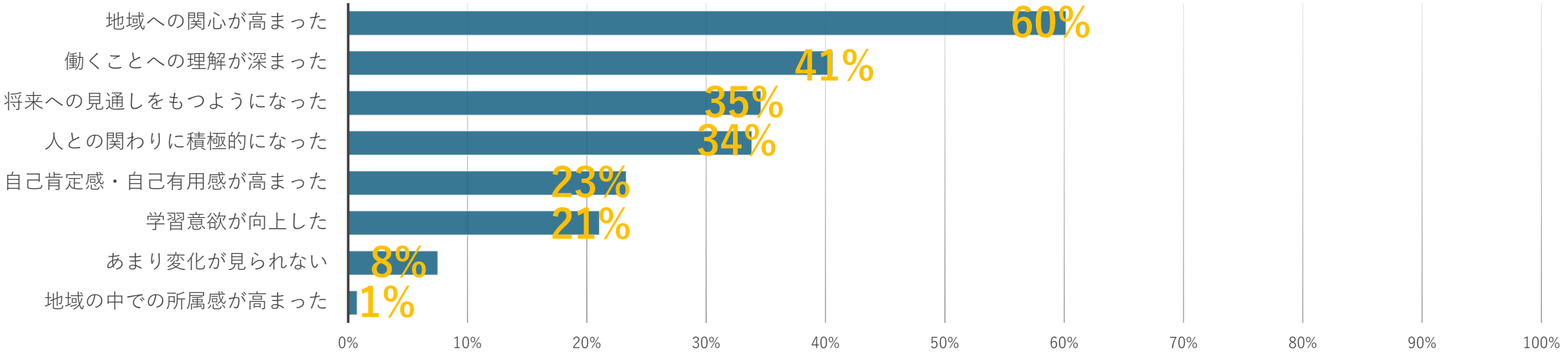
（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

⑨外部連携の課題

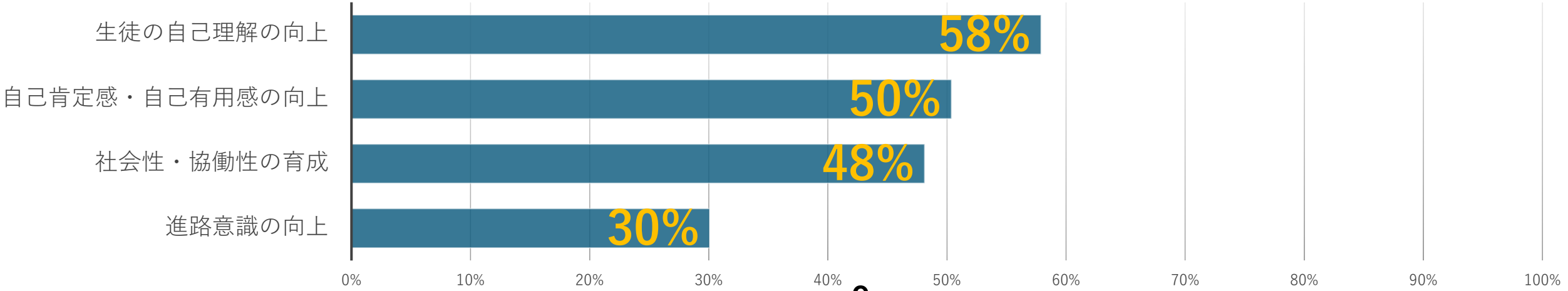


（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

⑩体験活動後に見られる児童生徒の変化（複数回答可）

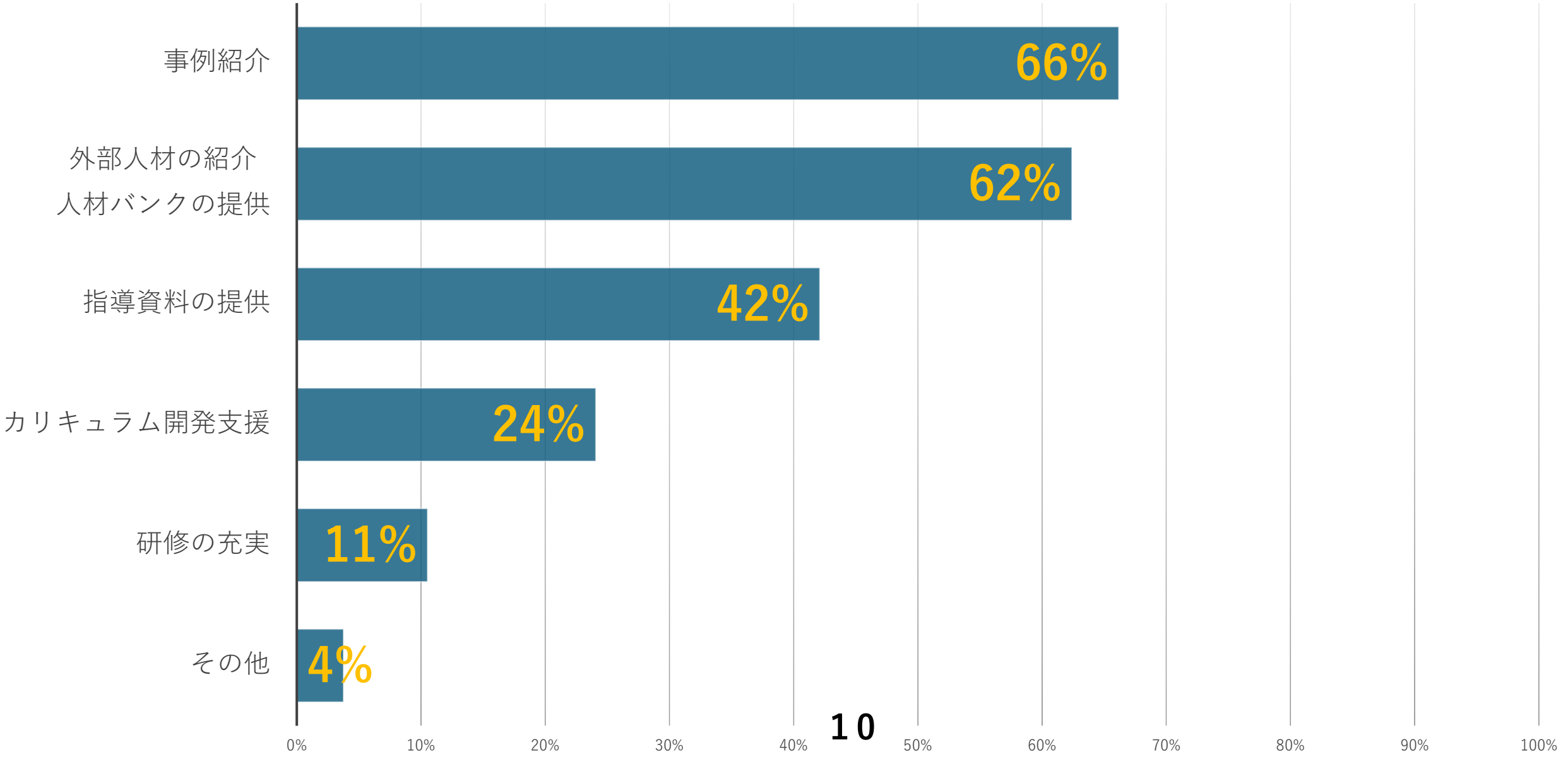


⑪キャリア教育の成果として実感していること（複数回答可）



（２）熊本市小中学校におけるキャリア教育の現状

⑫教育委員会への要望について（複数回答可）



（３）関係各課の取組（指導課）

ナイストライ実施学校数の経年推移



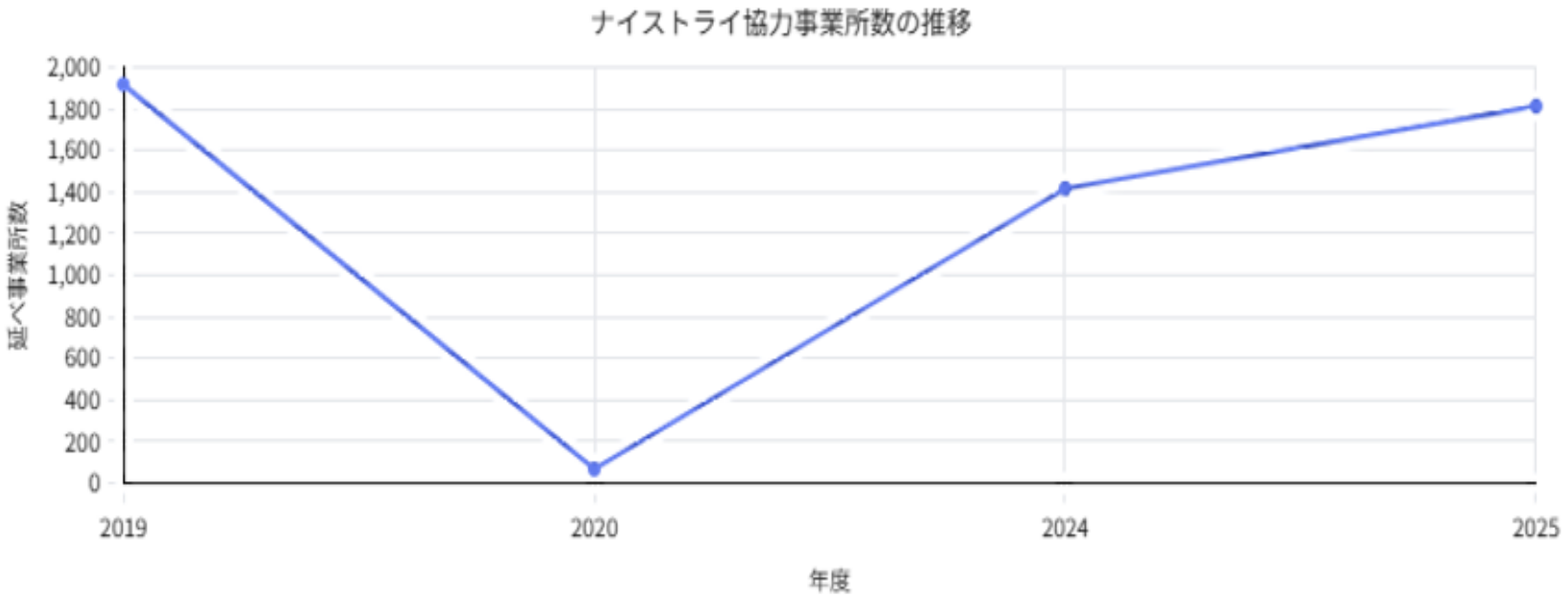
【推移の概要】

2019 年度（R1）：43 校
2020 年度（R2）：0 校（事業中止）
2021 年度（R3）：3 校（代替活動として実施）
2022 年度（R4）：11 校
2023 年度（R5）：37 校
2024 年度（R6）：43 校
2025 年度（R7）：43 校

コロナ禍の影響で 2020 年度に実施校数が大幅に減少。2021 年度以降は段階的に回復し、2024 年度にはコロナ禍前と同じ 43 校まで回復。2025 年度も 43 校を維持しており、全校実施体制が定着している。

（３）関係各課の取組（指導課）

【受入企業数の経年推移】



【推移の概要】

2019年:1,916事業所

2020年:66事業所（コロナ禍により大幅減）

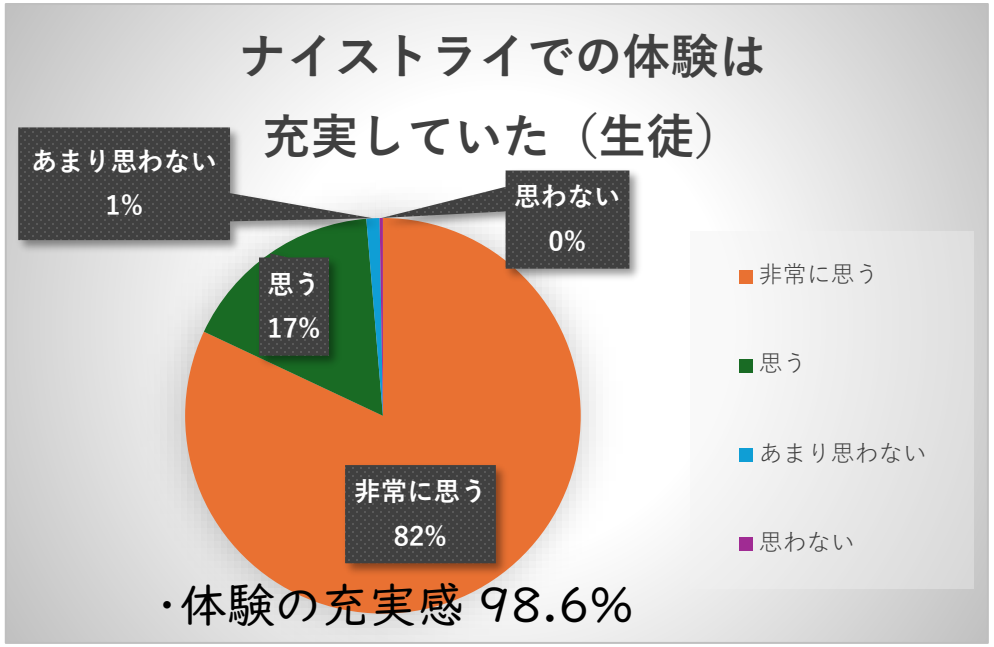
2024年:1,416事業所

2025年:1,812事業所（前年度比+396事業所）

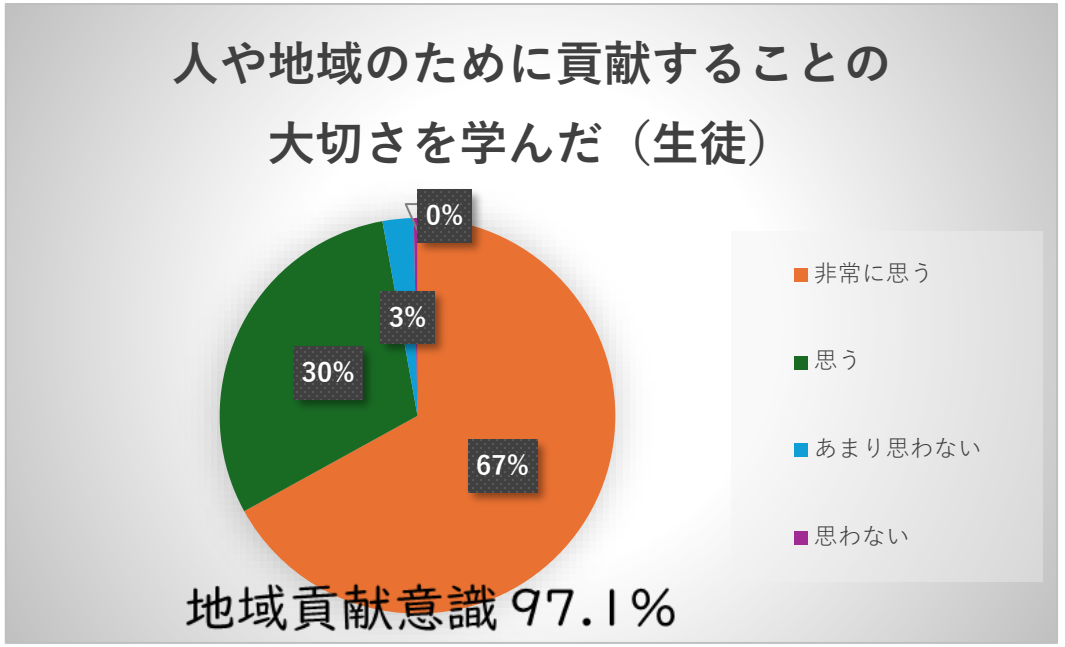
2020年度に大きく落ち込んだ後、協力事業所数は着実に回復。
2025年度にはコロナ禍前の水準にほぼ近づいている。
一方で、2019年度と比較すると104事業所不足しているが、学校が企業との継続的な確保ができるよう、企業団体協会等と連携し、ナイストライに賛同できる企業をリスト化するなどの取り組みを実施。

（３）関係各課の取組（指導課）

〈生徒〉



・体験の充実感 98.6%



地域貢献意識 97.1%

～記述より～

【成果】
・働くことの大変さとやりがいを実感責任感や達成感を体験的に学ぶことができた
・勤労観・職業観の形成将来の進路や職業について考える機会となった　など

【課題】
・体験内容のさらなる充実　・多様な業務や実践的な体験の希望　・事業所間の体験格差への対応
・業務内容や仕事量の差　・接客や交流活動ができる企業の増加　など

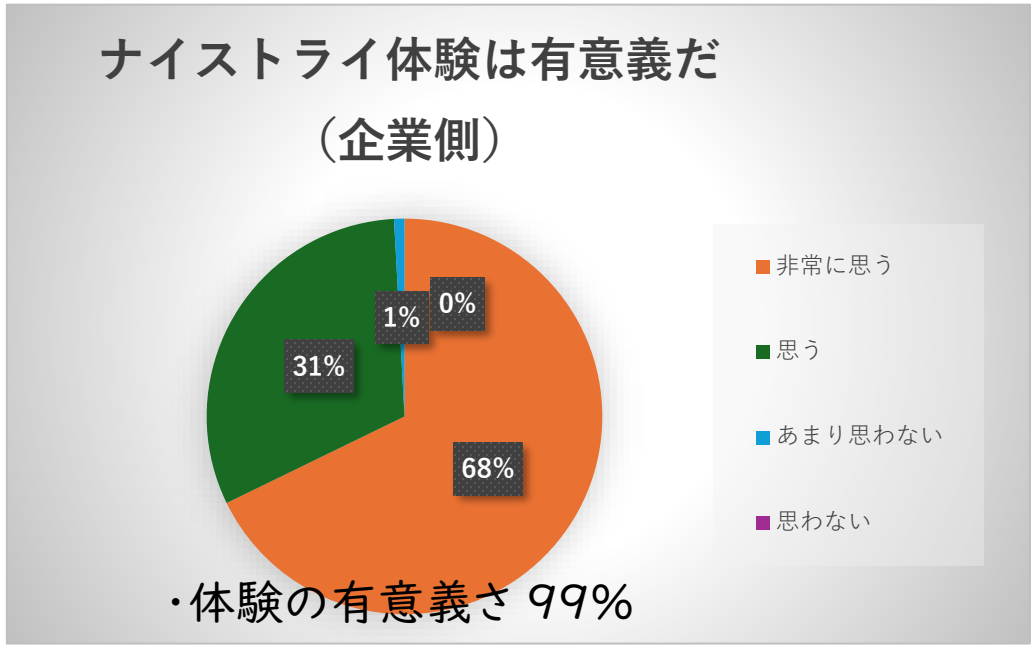
（３）関係各課の取組（指導課）

〈教職員〉～抽出校による聞き取りより～

【成果】
・生徒の成長を実感（礼儀、社会性等）
・勤労観・職業観の育成につながった
・生徒の興味関心に応じた体験が広がった

【課題】
・学校間の日程重複、日程調整
・熱中症等の安全管理
・教職員の負担
・学校と企業の連携強化

〈企業〉



・体験の有意義さ 99%

【成果】
・事業所の仕事や役割を地域へ発信する機会となった。
・職員・従業員の成長と職場活性化
・生徒の真剣な態度や成長する姿を見ることができた。
・働くことの大切さややりがいを伝える機会となった。

【課題】
・学校との連携、手続きなどの取扱いがわかりにくい部分があった。
・猛暑や荒天による熱中症・安全面への懸念
・業種によっては繁忙期と重なり受入れが困難
・事業所によって体験人数や活動内容の調整が必要

（３）関係各課の取組（雇用対策課）

～地域・企業とつながるキャリア教育～

１　仕事学びWEBライブの実施

・企業や職業人の話をオンラインで学ぶキャリア教育プログラム
・多様な仕事や働く人の思いに触れる機会を提供
・アーカイブ動画や企業紹介コンテンツを継続的に活用可能

２　地域・企業と学校をつなぐ取組

・北区は「集談会」を実施し、企業・地域団体・学校関係者が連携
・地域課題や教育活動について意見交換
・企業と学校の新たな連携事例を創出





（３）関係各課の取組（雇用対策課）

～地域・企業とつながるキャリア教育～



生成AIにて作成

【成果】
- 子どもたちが多様な職業に触れる機会を提供
- 地域・企業と学校の新たなネットワークづくりが進展

【課題】
- 学校参加数の減少傾向
- 学校間で活用状況に差がある
- キャリア教育全体の中での位置付けが十分共有されていない

（４）企業の取組（KAB）



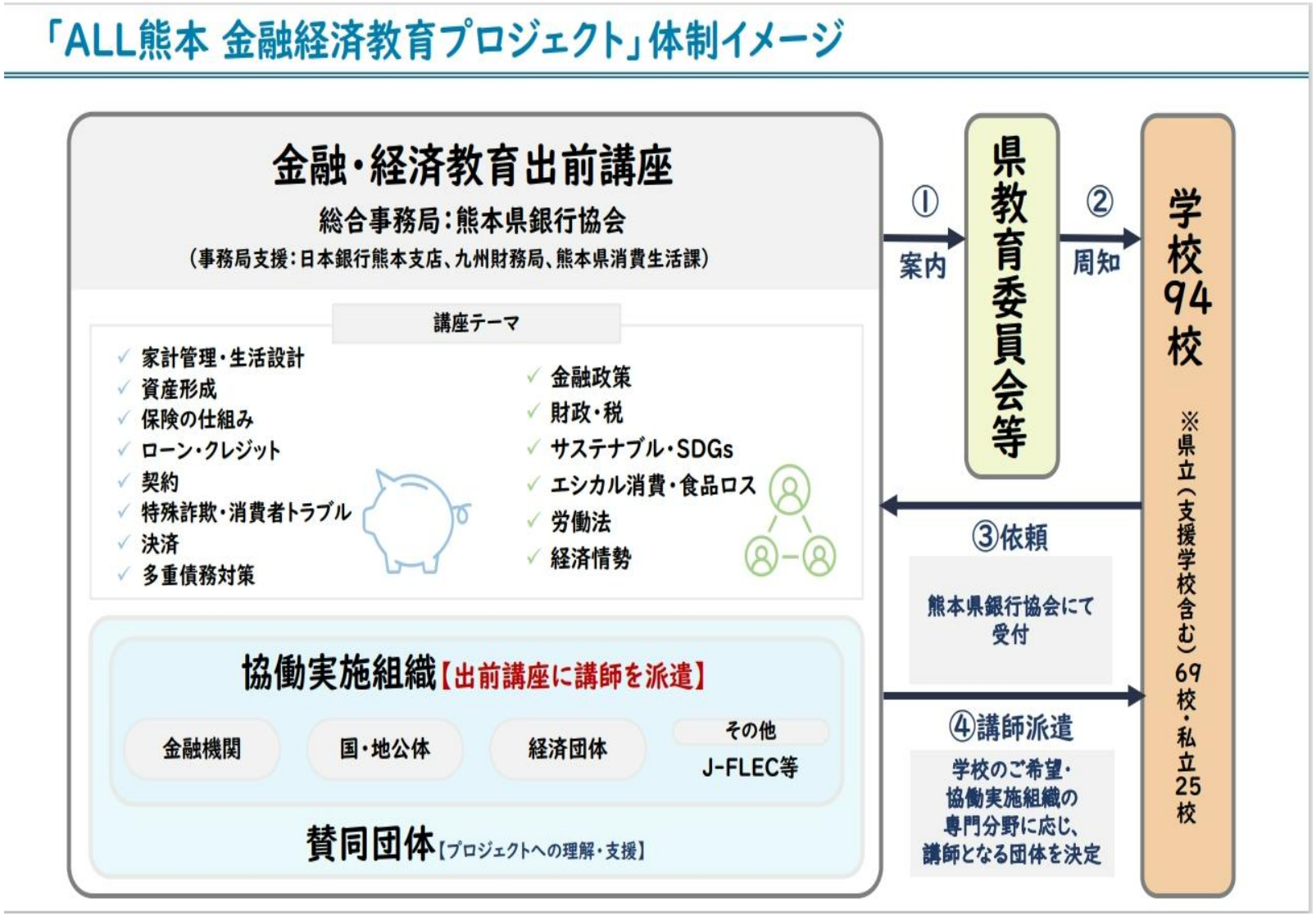
KAB　HPより



KABこどもが主役プロジェクト

こどもたちの“やってみたい”と、地域や社会をつなぐKABが展開している教育連携×地域連携事業。2025年から「Out of KidZania in くまもと」などを展開。

（４）企業の取組（肥後銀行）



熊本県HPより

All熊本プロジェクト

金融経済教育
県内の産・官・学・金の関係機関が一体となり、これからの熊本県を担う高校生の金融リテラシーの向上に貢献すること等を目的とし、県内全域の高校を対象に金融・経済分野に係る出前授業（無償）を実施。

（５）公益社団法人の取組（ジュニアアチーブメント）

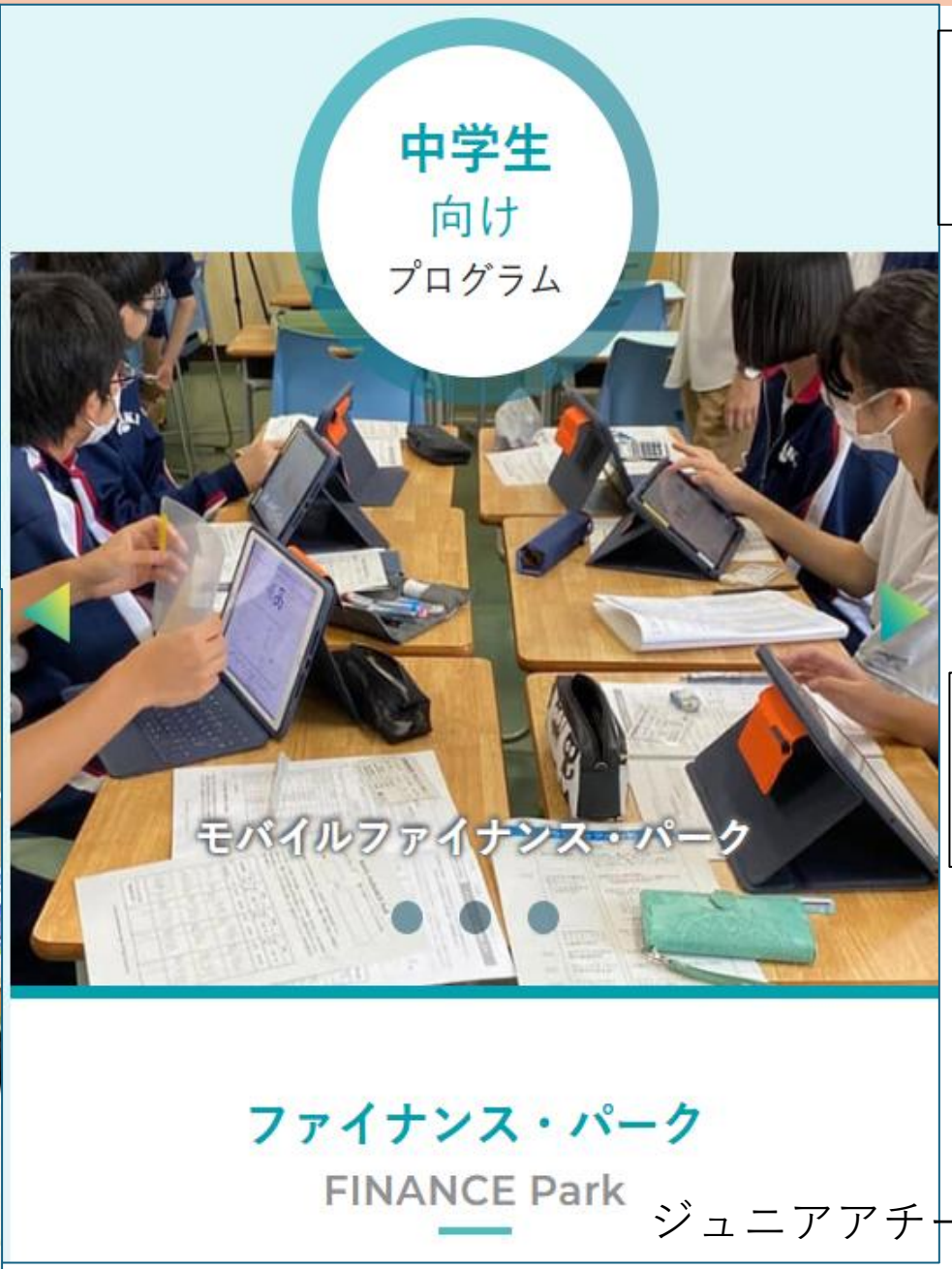




Student City

小学生向けプログラム：スチューデント・シティ

小学校5年～ 6年生対象



スチューデントシティ

本物の街を再現し、小学校5年生が物やサービスを「受ける側」「受け取る側」を交互に体験

ファイナンスパーク

生活に必要とされるお金について、大人の立場で生活設計するプログラム

ジュニアアチーブメントHPより